

徳島教育大綱

個性と国際性に富み、夢と志あふれる「人財」の育成に向けた取組状況

I 県域アカウント
小中高同一アカウントを利用
R6より
スタート ➡ R8完全運用予定

I タイピングコンテスト参加者数
R7冬大会の参加者数
R7より
スタート ➡ R7 **3,248人**

I Gemini教育者資格
全国上位の取得者数
R8より
取得促進 ➡ R8 **73人** ※R8.7時点

I 英語力
高3生の英語力は向上
R4 **50.0%** ➡ R7 **57.0%**

II トビタテ!留学JAPAN
県版トビタテの創設
R8 **67人**(国17人、県50人)

II 全国学力調査
小算全国差の改善
R4 -1.2pt ➡ R7 **+1.0pt**

II 全国体力調査
中男子対全国差の改善
R4 49.9点 ➡ R7 **50.8点**

II 探究活動
県立学校における好事例発表校
R4 3校 ➡ R7 **35校** (※累計)

II 通学区域制 (県立普通科高校)
移行プロセスに着手
R11入試から完全撤廃

II ラーケーションの日
県立学校での申請件数の推移
R7 制度
創設 ➡ R7 **2,050件**

II 肥満傾向児の出現率
11歳男女混合の出現率は増
R4 13.34% ➡ R7 **16.05%**

III いじめ解消率
全国平均を上回る解消率の維持
R4 94.1% ➡ R6 **93.0%**

III 不登校相談・指導率
相談・指導の充実
R4 50.1% ➡ R6 **51.6%**

III 校内教育支援センター
公立小中学校への設置率向上
R6 9.6% ➡ R7 **45.1%**

III 校則見直し率
生徒主体の見直し達成
R5 着手 ➡ R7 **100%**

IV 体育館空調設備
県立学校への設置率向上
R4 11.4% ➡ R7 **52.3%**

IV トイレの洋式化率
県立学校トイレの洋式化
R4 54.0% ➡ R7 **80.9%**

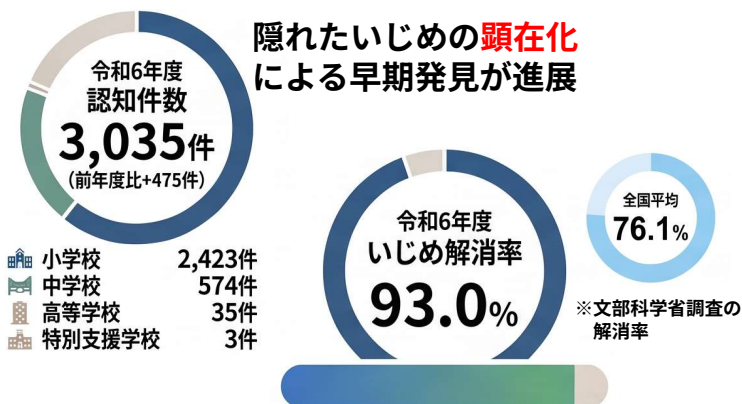
V 防災士養成数
中高生の養成数増加
R4 **840人** ➡ R7 **984人** (※累計)

V 教員時間外在校等時間
県立学校・月平均の縮減
R4 25.6h ➡ R7 **25.3h**

VI あわ文化検定
受検者数の増加
R4 1,346人 ➡ R7 **3,325人** (※累計)

徳島県いじめ対策の現状と今後の取組方針

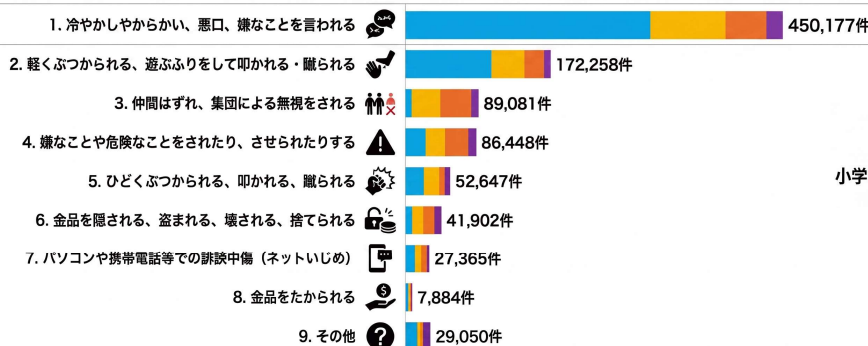
いじめ対策の現状と成果



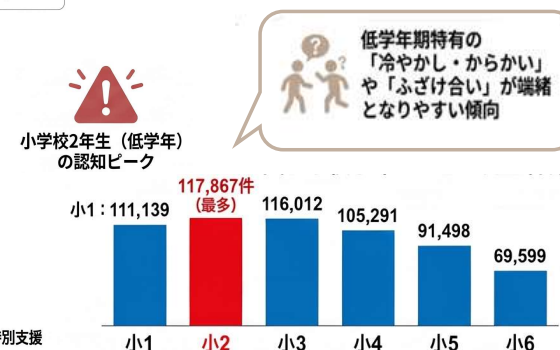
全国平均(※)を大きく上回る水準

【全国】いじめの態様 (R6)

(単位：件)



【全国】小学校学年別いじめの認知件数 (R6)



いじめ未然防止・重大事態化防止に向けた対応



(1) 児童生徒が主体となる 予防教育・啓発の推進

- 「いじめ防止子ども委員会」の全校設置と活動充実
- 「とくしまいじめ問題子どもサミット」の開催
- 県内すべての校種で「いじめ防止一斉学習」を実施
- 児童生徒による「スマホ・ネット利用ルール」の策定
- 校長会等を通じ、いじめへの厳格な対応と入学説明会等での保護者や生徒への説明を指示



(2) 専門家との協働による 組織的相談・支援体制

- スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)の全県配置
- 「SOSを見逃さない匿名相談アプリ」の運用開始(令和7年度～)
- スクールロイヤー(弁護士)によるアウトリーチ型支援
- 学校問題解決支援コーディネーターによる組織的対応



(3) 警察・関係機関等との 強固な連携

- 県警少年補導職員の県教委への配属(令和7年4月)
- 専門業者による「学校ネットパトロール」の監視強化
- 警察と学校との相互連絡による重大事案への迅速対応
- いじめ・生徒指導の事案によっては、進路変更勧告を含め、厳格に対応

今後の方向性：発達段階に応じたアプローチ



発達段階に応じたターゲット別対応の強化

低学年

道徳・人権教育による
自他を大切にする心の育成

高学年
～中高生

SNS教育や匿名相談アプリ活用
によるネットいじめ対策強化

校則の見直しについて

これまでの取組（制度の定着と実績）



100%

全公立学校で見直し実施率100%を達成

昨年度、県立学校32校・
公立中78校の全校で実施



見直しプロセスの「透明化」を推進
校則の内容と見直し過程を
ホームページで公開

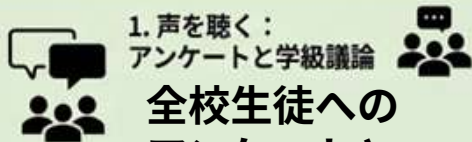


ツブロック禁止の削除や
服装規定の緩和



「校則見直し事例報告会」や
座談会の開催

見直しの流れの例（生徒主体のボトムアップ型）



1. 声を聴く：
アンケートと学級議論

全校生徒への
アンケートと
学級単位の議論



2. 練り上げる：
生徒会による協議

生徒会総会での
集約・
取りまとめ



3. 決定と周知：
校長判断と備報公開



生徒会と校長との
合意・HP公開



4. これから：

生徒主体の
校則の運用と
継続的な見直し



校則見直しについての生徒からの声

見直しにあたり自分たちの意見が反映され
自信になった（城南高校）

私服での登校が気分転換になるので
学校に行くのが楽しくなった（阿波高校ほか）



昨年の夏はとても暑かったので、
今年に向けてどうしてもポロシャツを
導入して欲しかった
導入されてよかった（徳島北高校ほか）

徳島から世界へ！「海外体験」推進の現状と展望 ～グローバル人材の育成を目指して～

【フェーズ1】「学び」を「未来」へ



生成AIやALTの活用により、日常的に「生きた英語」に触れる機会を創出し、全生徒の英語力と学習意欲を底上げる

【フェーズ2】「体験」を「自信」へ



多彩な海外研修や国際交流を通じて「世界を体感する機会」を提供し、郷土の良さを再発見し、世界へ発信できる人材の裾野を広げる

【フェーズ3】「憧れ」を「挑戦」へ



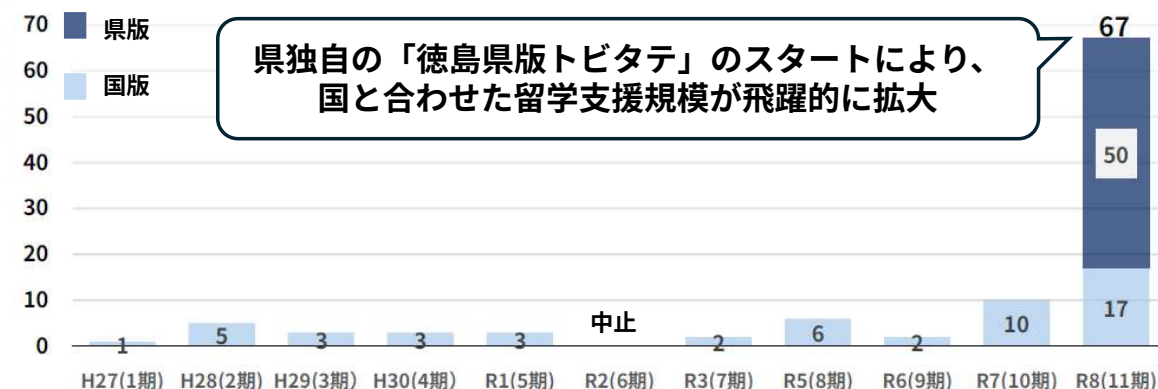
「徳島県版トビタテ」による返済不要の奨学金支援を行い、年間50名規模の留学を後押ししてグローバルリーダーを輩出する

令和7年度 海外研修等の実施状況

学校名	渡航先	期間	参加人数
徳島科学技術高校	台湾	4日	6名
脇町高校	台湾	5日	24名
城南高校	台湾	5日	32名
富岡西高校	台湾	5日	15名
鳴門渦潮高校	台湾	4日	7名
名西高校	台湾	4日	21名
池田高校	台湾	5日	11名
城ノ内中等教育（後期）	オーストラリア	15日	25名
富岡東中学校	オーストラリア	7日	32名
徳島北高校	オーストラリア	16日	40名
富岡東高校 他1校	韓国（済州）	5日	3名
徳島商業高校 他14校	韓国	4日	24名
鳴門高校	ドイツ	10日	13名
城北高校	ドイツ	10日	6名
城ノ内中等教育（前期）	アメリカ（グアム）	8日	38名
海部高校	アメリカ	10日	5名
城東高校	インドネシア	9日	17名
那賀高校	ニュージーランド	12日	4名
徳島北高校 他2校	タイ	5日	8名
阿波高校	香港	5日	3名

「トビタテ！留学JAPAN」採択の推移

採用者数（人）



多彩な渡航先と充実した派遣内容

多岐にわたる国々で、フィールドトリップや現地高校生との議論を実施

【これまで】海外体験の機会拡大



- ・「徳島県版トビタテ」の創設
- ・海外研修等への支援
- ・オンライン交流プログラムの実施
- ・台湾・韓国留学生との交流事業の実施
- ・留学フェアによる機運醸成

【これから】さらなる海外体験の推進

【R8予定】※R8.7時点で参加人数を把握できているものを記載

- ・タイ国際生徒会議（タイ）7名
- ・済州青少年国際フォーラム（韓国）3名
- ・JENESYS2026（韓国）10名
- ・とくしま生徒まんなか探究活動推進事業での海外活動（韓国）40名（予定）ほか4カ国110名（予定）

高校入試に係る県外枠と受入環境の整備について

現状の成果・課題と今後の方向性

県外枠の拡大推移と進学実績



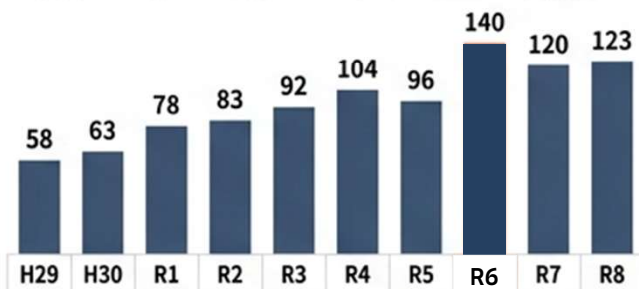
一家転住（移住）による志願制限なし

- H26: 3校で全国募集
- H28: 13校へ拡大
- H30: 17校へ拡大（海部高校は制限なし）
- H31: 18校へ拡大（那賀高校・池田高校は制限なし）
- R2: 池田辻校・三好校の制限撤廃
- R8: 21校へ全国募集拡大
- **R9: 育成型選抜・実績重視枠・運動部の制限なし**



文化分野では、名西（芸術）等で全国募集
徳島商業（阿波踊り）、那賀（阿波人形浄瑠璃）
で県外からの進学実績あり

県内全日制公立高校への県外からの進学者数



受入環境の整備状況

県立寮の整備

総合寄宿舎：へき地出身者等の進学、複数校利用
・県内5寮（徳島・阿南・美馬東部・三好・三好池田）
・入寮者293名／定員320名（R8.5.1現在）
※三好池田寮（R7.2.1開寮）

単独寮：教育環境の確保、単独校利用
・県内3校5寮（鳴門渦潮、海部、那賀）
・入寮者190名／定員246名（R8.5.1現在）
※第三海部寮（R7.4.1開寮）

市町村立寮

- ・神山町：1寮（入寮者17名／定員18名）
- ・那賀町：2寮（入寮者22名／定員45名）

地元自治体等による支援体制

- ・まち親制度：入寮者の食事や病気対応へのサポート
- ・遠距離通学等支援：通学費の補助および居住支援

今後の方向性と展開

制度の抜本的進化

**R11年度入試からの学区撤廃に
向け入試制度部会で検討中**

県外枠の発展

- ・ネクストハイスクールを活用した入試制度の枠拡大（探究枠創設など）

受入環境の継続的アップデート

- ・ネクストハイスクールを活用した環境整備
- ・民間アパートなど住まいの情報収集・提供
- ・空き家を含めた既存施設の有効活用
- ・市町村との連携・協働による住まいの確保